

平成 26・27 年度研究

〈小学校・中学校・高等学校〉

**教員の「思い」から始まる  
コミュニケーション能力育成のための  
実践事例集**

神奈川県立総合教育センター



## はじめに

平成23年8月文部科学省コミュニケーション教育推進会議では、社会構造の変化に伴う価値観・生活パターンの多様化により、地域でのコミュニティ形成が難しい状況にあり、それが、子どもたちのコミュニケーションの在り方に影響を及ぼしていると述べられています。また、経済協力開発機構(OECD)が「主要能力(キーコンピテンシー)」の一つとして、「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」を挙げていることや、企業が学生を採用するに当たって重視する能力として、「コミュニケーション能力」が毎年挙げられていることなどから、子どもたちの人間関係形成能力やコミュニケーション能力の育成に対する社会的要請は高いと言えます。

学習指導要領では、各教科等で人間関係形成に係る活動や言語活動の充実などを通して、コミュニケーション能力の育成を図るよう示されています。しかし、コミュニケーション能力の育成について、具体的な内容は示されておらず、各学校の取組に任されているのが現状です。

神奈川県立総合教育センターでは、平成26・27年度の2年間にわたり、児童・生徒の実態から、これからの社会を生きるために必要なコミュニケーション能力を整理し、学校の教育活動の中で意図的に育成するための具体的な方策を探求してきました。

本冊子では、コミュニケーション能力を意図的に育成するための授業づくりの方策と、調査研究協力員6名が実践した事例(小学校2例・中学校2例・高等学校2例)を示しています。各学校の児童・生徒に、これからの社会を生きるために必要なコミュニケーション能力を育成する際の参考として、本冊子を御活用いただければ幸いです。

平成28年3月

神奈川県立総合教育センター

所長 北村 公一

# 目次

はじめに

目次

本冊子の目的と構成

本冊子を読み始める前に	1
1 児童・生徒に、こんな課題があります！	2
2 児童・生徒にどんな人になってほしいですか？	3
<b>第1章 「何を」育成するかを児童・生徒の実態から考える</b>	
1 「コミュニケーション」をどう捉えるか	5
2 「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」	6
<b>第2章 学校の教育活動の中で意図的に育成する方法</b>	
1 「いつ」育成するか	9
2 「どのように」育成するか	10
3 「どのような姿が見られたら」育成されたか	11
<b>第3章 実践事例（小学校2例・中学校2例・高等学校2例）</b>	
1 共通事項と実践事例のページの構成	13
2 A小学校（3年生）の実践事例	15
3 B小学校（5年生）の実践事例	19
4 C中学校（1年生）の実践事例	23
5 D中学校（1年生）の実践事例	27
6 E高等学校（2年生）の実践事例	31
7 F高等学校（2年生）の実践事例	35
本冊子を活用するに当たり	39
<資料> 「コミュニケーションに関するアンケート（児童用）」	40
「コミュニケーションに関するアンケート（生徒用）」	41
「授業づくりの例」	42
<引用文献> <参考文献>	43
<実践事例集 作成関係者>	44

# 本冊子の目的と構成

## 本冊子の目的

本冊子は、コミュニケーション能力の育成方法を具体的に示し、これからの社会を生きるために必要なコミュニケーション能力を、学校の教育活動の中で意図的に育成することを目的として作成しました。

## 本冊子の構成

本冊子を読み始める前に

を初めに読み、見たいページを探してください

第1章 「何を」育成するかを児童・生徒の実態から考える  
「コミュニケーション能力とは何か」を知りたい方はこちらへ

第2章 学校の教育活動の中で意図的に育成する方法  
「コミュニケーション能力をどのように育成するか」を知りたい方はこちらへ

第3章 実践事例（小学校2例・中学校2例・高等学校2例）  
「コミュニケーション能力の育成を実践した様子や成果」を知りたい方はこちらへ

## 本冊子を読み始める前に

文部科学省 コミュニケーション教育推進会議において、「近年の若者は、良好な人間関係の形成やコミュニケーションに課題があると考えられる」と指摘されています。それに対し、企業が若者に求める能力の上位にはいつも「コミュニケーション能力」があります。このことから、若者のコミュニケーション能力育成への社会的要請は高いことが分かります。

先生方も、教育活動の中で児童・生徒の人間関係形成能力やコミュニケーション能力に課題を感じ、その課題解決のために、授業や行事などをとおしてコミュニケーション能力の育成に取り組んでいると思います。

しかし、児童・生徒に対し、「コミュニケーション能力を育成したなあ」と実感することは、なかなかないのではないでしょうか。育成する側が実感できなければ、育成されている児童・生徒に実感できると思えません。そして、児童・生徒自身が、「コミュニケーション能力を育成された」と実感できなければ、その能力を社会で発揮することは困難です。

そこで、児童・生徒が、「コミュニケーション能力が育成された！」と実感し、先生方も、「コミュニケーション能力を育成した！」と実感できるような育成方法を提案しようと本冊子を作成しました。

では、何から始めれば良いのでしょうか？本冊子では、先生方が日頃感じている児童・生徒の課題をきっかけにして、先生方の「こんな人になってほしい」という「思い」を基に、コミュニケーション能力育成に取り組める方法を紹介しています。次のページの6名の先生方は、調査研究協力員として検証授業を行いました。その先生方が授業づくりの始めに行ったのが、児童・生徒のコミュニケーションや人間関係形成に関する課題を発見することでした（第1図）。そして、その課題を解決して「こんな人になってほしい」という先生方の「思い」を反映させて、授業で児童・生徒に身に付けさせたい力を設定しました。

今、本冊子をお読みいただいている先生方も、現在関わっている児童・生徒の課題と、その児童・生徒に、どんな人になってほしいかを思い浮かべながら読み進めてください。

コミュニケーションのとり方や人間関係形成に関して

「こんな課題があります！」（P. 2）



課題を解決して

「こんな人になってほしい！」（P. 3, 4）



そのために「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」を活用して、

「こんな力を身に付けさせよう！」（P. 3, 4）

第1図 「授業づくりの始めに」

## 1 児童・生徒に、こんな課題があります！

「グループ活動では、協力したり全員が意見を言ったりできます。でも、グループづくりのときは、いつも一緒にいる友達にこだわって、他の友達を避けてしまう児童や、一人になってしまう児童がいます。」

**A小学校 3年生**



「学校の決まりやみんなとの約束を守ることができる学級です。でも、グループの話し合いの様子を見ていると、決まった児童だけが発言していたり、仲の良い友達としか話さない児童がいたりします。」

**B小学校 5年生**

「学級に安心して意見を言える雰囲気があり、授業中の発言が多いです。しかし、自分の考えを分かりやすく伝えたり、話し合いを上手に進めたりすることが苦手な生徒が多くいます。」

**C中学校 1年生**



「自分の思いや考えを表現できる素直な生徒が多いです。しかし、言って良いことと悪いことの区別ができず、心無い言動からトラブルに発展してしまうことがあります。」

**D中学校 1年生**

「学習や部活に地道に取り組む生徒が多く、責任のある行動ができます。でも、自分から他者に働きかけることが少なく、相手の考えていることを推し量りながら人間関係を築くことが苦手な生徒が多いです。」

**E高等学校 2年生**



「教室ではリラックスして生活できる良い雰囲気があり、活発な生徒も多いです。でも、みんなの意見を聞き、そこから一つの結論を導き出すような、話し合いの技術が身に付いていない生徒が多いです。」

**F高等学校 2年生**

## 2 児童・生徒にどんな人になってほしいですか？

「相手の気持ちを考えながら、  
コミュニケーションを  
とれる人になってほしい」



**だからこの項目で**

「相手の言動により自分の気持ちが変わることに  
気付き、それを居心地の良いクラスづくりに役立て  
ようとする力を身に付けさせたい」

(D中学校 実践事例 P.27～)

「固定観念を持つことなく、  
多くの人と関われる人に  
なってほしい」



**だからこの項目で**

「友達の新たな一面を発見すると共に、  
相手の思いや考えを聞き取る力を身に付  
けさせたい」

(B小学校 実践事例 P.19～)

育成すべき 能力	項目	
	ア	イ
<b>A 相手意識</b> 相手の状況を意識して コミュニケーションをとる能力	相手が自分のコミュニケーションのとり方に影響を及ぼしていることに気付いている。	自分が相手のコミュニケーションのとり方に影響を及ぼしていることに気付いている。
<b>B 目的意識</b> 目的に応じた コミュニケーションをとる能力	目的や与えられた指示などの大切さや有効性に気付いている。	目的に応じて、みんなの思いや考えを聞き取ることの大切さや有効性に気付いている。

次のような疑問がある方は、該当ページをご覧ください

- ① 「ここで言うコミュニケーションって何？」…………… P. 5
- ② 「この表について詳しく知りたい！」…………… P. 6
- ③ 「コミュニケーション能力っていつ育成すればいいの？」…………… P. 9
- ④ 「どんな視点で授業づくりをすればいいの？」…………… P.10
- ⑤ 「コミュニケーション能力が育成されたかはどうやって判断するの？」…………… P.11
- ⑥ 「どんな手順で授業づくりをするの？」…………… P.13
- ⑦ 「どんな実践をしたの？」…………… P.14 及び吹き出しに示したページ

～「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」を活用して～

「他者の個性を理解し、積極的に関わることができる人になってほしい」



**だからこの項目で**

「相手を思いやりながら人間関係を築く力を身に付けさせたい」

**(E 高等学校 実践事例 P.31～)**

「仲の良い友達以外とも自らコミュニケーションをとれる人になってほしい」



**だからこの項目で**

「相手の状況を意識する力を身に付けさせたい」

**(A 小学校 実践事例 P.15～)**

**(児童・生徒の具体的な姿)**

ウ	エ	オ
自分にとっての、コミュニケーションをとりやすい場ととりにくい場の違いを発見している。	相手にとって、コミュニケーションをとりやすい場か、とりにくい場かを推測している。	相手の状況を意識して、コミュニケーションをとりやすい場を考え、自ら作ろうとしている。
目的に応じて、みんなの思いや考えを分類することの大切さや有効性に気付いている。	目的に応じて、みんなの思いや考えを一つにまとめることの大切さや有効性に気付いている。	自ら設定した目的に応じて、効果的なコミュニケーションの方法を選択している。

「集団の中で、自分の考えを伝えたり、効果的に話し合いを進めたりすることができる人になってほしい」



**だからこの項目で**

「合意形成する力を身に付けさせたい」

**(C 中学校 実践事例 P.23～)**

「場面に応じて、必要なコミュニケーションがとれる人になってほしい」



**だからこの項目で**

「情報を収集したり整理したりする中で自分の状況を把握しながら活動する力を身に付けさせたい」

**(F 高等学校 実践事例 P.35～)**

# 第1章 「何を」育成するかを児童・生徒の実態から考える

## 1 「コミュニケーション」をどう捉えるか

「ここで言う  
コミュニケーションって何？」

「コミュニケーション」とは、一般的に情報の伝達行為を指しますが、その捉え方は様々です。例えば「コミュニケーションがとれない」という言葉を聞いたとき、「相手にうまく伝達できなかったようだ」と感じる場合と、「相手とうまく人間関係が作れていないようだ」と感じる場合とがあります。これについて、高橋は、「コミュニケーションが単なる情報の伝達・共有という物理的な行為にとどまらず、心への働きかけという精神的な作用をともなう行為であることを示すもの」(高橋 2010)と述べています。つまり、「コミュニケーション」とは、情報を伝達するだけでなく、その行為によって起こり得る結果までも含む場合があるということです。コミュニケーションをとることによって得られる結果は様々です。そのことが、「コミュニケーション」の捉え方を多様にしています。

実際に、コミュニケーションをとるときは、目的があることがほとんどです。例えば「相手と仲良くなりたい」から「話しかける」、「相手のことを知りたい」から「聞く」、「相手と効率良く作業をしたい」から「話し合う」などです。このとき、「コミュニケーション」は、「仲良くなりたい」、「知りたい」、「効率良く作業したい」などの目的のための手段となります。

そこで本冊子では、「コミュニケーション」を「伝え合い」という手段としてだけでなく、コミュニケーションをとることにより、得られる結果も含んだものとして捉えることとしています。



## 2 「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」

「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」(P. 3, 4 及び P. 7) は、これからの社会を生きるために必要なコミュニケーション能力を具体的に示したものです。

「この表について詳しく知りたい！」

この観点表は、先生方が、児童・生徒にコミュニケーション能力を育成する際、より具体的に、身に付けさせたい力をイメージできるように作成しました。

### 「相手意識」と「目的意識」を育成すべき能力とした理由

この表を作成するに当たり、「コミュニケーションに関するアンケート調査」を平成 26 年度に実施しました。この調査は、児童・生徒がコミュニケーションをとる際に感じていることやコミュニケーションをとりやすい環境の傾向を探るために、県内の児童・生徒 5,391 名を対象に実施したものです。その分析結果から、児童・生徒のコミュニケーションのとり方には、次の二つの傾向があることが分かりました。

- 自分の思いを伝えることに意識が強く向く
- 自分の好みに合わせてコミュニケーションをとる相手や場を選ぶ

これらの傾向は、自分の思いや考えを発信したり、自分の興味・関心がある場に意欲的に参加したりするなど、コミュニケーションのとり方や人との関わり方にプラスに働きます。

反面、これらの傾向により、次の二つの力が、身に付かないおそれがあります。

- 多様な他者の考えや立場を理解し、自分の置かれている状況を受け止める力
- 他者と協力・協働して社会に参画する力

これらは、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な能力の一つである「人間関係形成・社会形成能力」として、文部科学省「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」に挙げられている力です。

自分の思いを伝えることばかりに意識が強く向いていると、多様な他者の考えや立場を理解しにくくなります。また、自分の好みに合わせて相手や場を選んでばかりいると、多様な他者と協力・協働して何かを成し遂げることに不得意さを感じたり、そのような場を避けたりしてしまうかもしれません。

そこで、児童・生徒に必要なコミュニケーション能力を次の二つとしました。

- 相手の状況を意識してコミュニケーションをとる能力（「相手意識」）
- 誰とでも、目的に応じたコミュニケーションをとる能力（「目的意識」）

## 「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」作成のポイント

### (1) 小学校から高等学校まで同じ項目で育成する

校種や学年など発達段階が異なる場合でも、「児童・生徒の具体的な姿」の項目の内容を同一にしました。それは、項目の内容は、どの校種や学年でも繰り返し身に付けたいものであり、児童・生徒の実態や環境の変化に合わせ学習活動を設定すれば、同じことの繰り返しにはならないと考えたからです。

### (2) 授業のねらいは「できる」よりも「気付く」

「児童・生徒の具体的な姿」の文末を、「～できている」ではなく「～に気付いている」や「～を発見している」としました。授業では、コミュニケーションのとり方に気付いたり発見したりすることに重点を置きました。それは、コミュニケーション能力は、その授業だけで身に付くものではなく、学校生活の様々な場面で、繰り返し活用することで身に付いていくものだと考えたからです。

## 「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」(再掲)

育成するべき 能力	項目（児童・生徒の具体的な姿）				
	ア	イ	ウ	エ	オ
<b>A 相手意識</b> 相手の状況を意識してコミュニケーションをとる能力	相手が自分のコミュニケーションのとり方に影響を及ぼしていることに気付いている。	自分が相手のコミュニケーションのとり方に影響を及ぼしていることに気付いている。	自分にとってのコミュニケーションをとりやすい場ととりにくい場の違いを発見している。	相手にとって、コミュニケーションをとりやすい場か、とりにくい場かを推測している。	相手の状況を意識して、コミュニケーションをとりやすい場を考え、自ら作ろうとしている。
<b>B 目的意識</b> 目的に応じたコミュニケーションをとる能力	目的や与えられた指示などをみんなで共通理解することの大切さや有効性に気付いている。	目的に応じて、みんなの思いや考えを聞き取ることの大切さや有効性に気付いている。	目的に応じて、みんなの思いや考えを分類することの大切さや有効性に気付いている。	目的に応じて、みんなの思いや考えを一つにまとめることの大切さや有効性に気付いている。	自ら設定した目的に応じて、効果的なコミュニケーションの方法を選択している。



## 「相手意識」の各項目の設定のポイント

### (1) 相手によってコミュニケーションのとり方は変わることに気付く

例えば、校長先生と話をするときと、友達と話をするときでは、言葉遣い以外にも、コミュニケーションのとり方に何らかの違いがあると思います。項目の「ア」と「イ」は、まず、コミュニケーションをとる際には、お互いに影響し合っていることに気付かせるために設定しました。

### (2) コミュニケーションをとりやすい環境ととりにくい環境があることに気付く

自分にとって、コミュニケーションをとりやすい環境と、とりにくい環境があることに気付かせれば、相手にも、コミュニケーションをとりやすい環境ととりにくい環境があることに気付かすくなります。項目の「ウ」と「エ」は、相手の状況に対する意識を高めるために設定しました。

### (3) 相手の状況を考えてコミュニケーションをとろうとする

相手の状況を意識してコミュニケーションをとる能力は、行動に表れて初めて身に付いているかどうか分かります。項目の「オ」は、相手の状況を考えることができれば、それを行動につなげられるようにするために設定しました。

## 「目的意識」の各項目の設定のポイント

### (1) 話合いの方法による有効性の違いに気付く

日頃、何気なく行っている話合いでは、共通理解を図ったり、みんなの意見を分類したりする方法を無意識のうちに使っているため、いざ話合いの方法を選択しなければならなくなったとき、どの方法にどのような効果があるのかを考えて選択することができないのではないのでしょうか。項目の「ア」から「エ」は、まず、どのような方法を使って話合いを進めているかを意識できるように設定しました。

### (2) 目的に応じたコミュニケーションの方法を選択する

目的に応じたコミュニケーションをとる能力は、実際の場面で効果的な方法を選択できて初めて身に付いているかどうか分かります。項目の「オ」は、効果的な方法を選択する機会を与えるために設定しました。

## 第2章 学校の教育活動の中で意図的に育成する方法

### 1 「いつ」育成するか

「コミュニケーション能力っていつ育成すればいいの？」

学習指導要領では、各教科等で、人間関係形成に係る活動や言語活動の充実などを通して、コミュニケーション能力の育成を図るよう

示されていますが、育成の時間や内容については、具体的に示されていません。それは、各学校の実態に合わせた取組に任されているからです。

もちろん、コミュニケーション能力は、教育活動のどの場面でも育成できると考えていますが、児童・生徒が、育成されたと実感するためには、コミュニケーション能力育成のための活動の時間を、設定することが効果的です。

そこで、**特別活動 1 学級（ホームルーム）活動の時間**が、コミュニケーション能力育成のための活動の時間として、適当であると考えました。その理由を次に挙げます。

まず、「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」の項目の内容を育成することは、特別活動の目標である、「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことや、「特別活動 1 学級（ホームルーム）活動」の目標にある、望ましい人間関係を形成することや諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てることにつながります。

次に、学級は、構成メンバーの性格や反応の仕方が、ある程度分かっているけれども、様々な関係性の人がいる場所です。それは、相手によって、自分の思いや考えを表現しやすい場合と、表現しにくい場合があるということです。そうした学級は、全員が参加し、思いや考えを伝え合いながら、コミュニケーション能力を育成する場として適しています。

これらのことから、第3章で紹介している六つの実践事例のうち、五つの事例が、学級（ホームルーム）活動の時間に検証授業を行っています。一つの事例のみ高等学校の日本史Bの授業の時間に検証授業を行っています。



## 2 「どのように」育成するか

「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」に示した能力を、どの学校でも育成できるように、四つの授業づくりのポイントを考えました。

「どんな視点で授業づくりをすればいいの？」

### (1) 教員が、児童・生徒の実態から、コミュニケーションに関する課題を挙げる

多くの教員が、児童・生徒のコミュニケーションのとり方や人との関わり方に課題を感じています。例えば、「相手の気持ちを考えて発言できていない」や「その場の状況を考えて話すことができていない」などです。その課題意識を授業づくりのスタートにします。

### (2) 教員が、目指す児童・生徒像を決め、実現するための学習活動を考える

多くの教員は、児童・生徒のコミュニケーションのとり方や人との関わり方に課題を感じていると同時に、どのような力が児童・生徒に身に付いたら課題が解決するかというイメージも持っています。例えば、「相手の気持ちを考えて発言できていない」という課題に対して、「思いやりを持って人と接する」、「自分と同じように相手にも思いがあることを理解する」などです。これらの「こんな人になってほしい」という教員の思いを授業づくりに反映させていきます。

### (3) 児童・生徒が、自分のコミュニケーションのとり方に気付けるような場面を設定する

児童・生徒は、自分の思いや考えを伝えることに対する意識は高いけれど、それを相手がどのように受け取ったかに対する意識は低いという調査の結果が出ています。言い換えると、自分自身がどのようなコミュニケーションのとり方をしているかを客観的に見ることが少ないということです。そこで、児童・生徒自身が、コミュニケーションのとり方に気付けるような場面を設定します。

### (4) 児童・生徒が今後どのようにコミュニケーションをとっていくのかを考える場面を設定する

児童・生徒は、「良いコミュニケーションのとり方」や「コミュニケーションの上手な人」に対する具体的なイメージを持っているという調査の結果が出ています。自分のコミュニケーションのとり方を客観的に見ることができたら、そこから、児童・生徒自身が考える「良いコミュニケーションのとり方」に自分のコミュニケーションのとり方を近付けることができます。そこで、今後のコミュニケーションのとり方を考えさせる場面を設定します。

これら四つのポイントを基に授業づくりを行うことにより、どの学校、どの教員でも、児童・生徒に、コミュニケーション能力を育成することができます。

### 3 「どのような姿が見られたら」育成されたか

児童・生徒に必要なコミュニケーション能力を育成しても、「どのような姿が見られたら」育成されたと判断するかということが

「コミュニケーション能力が育成されたかはどうやって判断するの？」

明確でなければ、児童・生徒にコミュニケーション能力を身に付けさせることができたか分かりません。

そこで、次のような姿が見られたら、コミュニケーション能力が育成されたと判断します。

#### 児童・生徒に、授業のねらいに則したコミュニケーション能力に関する「気付き」や「行動の変容」が見られたとき

「気付き」や「行動の変容」は、次の三つの結果から総合的に判断します。

##### (1) 授業前と授業後に同じ質問項目で実施するアンケート調査

「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」の項目について、授業前と授業後に同じ内容でアンケート調査をします。その数値の変化で「気付き」があったかを判断します。右に検証授業で使用した児童用のアンケートの一部を紹介します。アンケート全体は〈資料〉(P.40,41)に掲載しています。

##### 「コミュニケーションに関するアンケート(児童用)」

コミュニケーションに関する質問に答えてください。問1～10は、(1)とても思う(2)思う(3)あまり思わない(4)まったく思わない、の中から、それぞれ1つえらび、○でかこんでください。問11・12は、自分のことばで答えてください。

※ このアンケートでの「コミュニケーション」とは、話し合いやおしゃべりや発表など、伝え合う活動のすべてをふくみます。

1 あいてのようすや、あいてが「だれ」かによって、自分のコミュニケーションのとり方は変わると思う。

(1)とても思う (2)思う (3)あまり思わない (4)まったく思わない

2 自分とあいてとの関係や、自分のたいどによって、あいてのコミュニケーションのとり方は変わると思う。

(1)とても思う (2)思う (3)あまり思わない (4)まったく思わない

##### (2) 授業前、授業中の振り返り、授業後の児童・生徒の記述内容

授業前と授業後のアンケートと授業中の振り返りには、それぞれ記述式の質問があります。その記述内容から、「気付き」と「行動の変容」があったかを判断します。次に記述項目の例を紹介します。

##### 〈授業前のアンケート記述項目〉

- コミュニケーションをとるときに、大切だと思うことは何ですか。
- 話し合いを進めるときに、大切だと思うことは何ですか。

##### 〈授業中の振り返り記述項目〉

- この授業で、気付いたこと・分かったこと・思ったことなどを自由に書いてください。
- この授業で、気付いたことや学んだことは、生活の中でどのようにいかせるといいますか。予想してみてください。

##### 〈授業後のアンケート記述項目〉

- コミュニケーションをとるときに、大切だと思うことは何ですか。
- 話し合いを進めるときに、大切だと思うことは何ですか。
- 授業で気付いたことや学んだことを、生活の中でいかせましたか。

### (3) 教員による、授業後の児童・生徒の行動の観察

教員が、「この授業を行ったら児童・生徒はこんな発言や行動をするようになるだろう」という、児童・生徒の「行動の変容」を、授業づくりの際に想定しておきます。そして、その想定が実現したかを授業後の学校生活の様々な場面で、授業者が、観察して判断する方法です。

次に「授業者から見た、コミュニケーション能力観察表（以下、「観察表」という）」を紹介します。

授業者から見た、コミュニケーション能力観察表 \_\_\_\_\_ 学校 氏名

○現状 <b>(記入例)</b> 発言した友達をからかう生徒がいて、授業中の発言が少ない。		
○選んだ項目（ねらい） <b>(記入例)</b> A相手意識一ウ 自分にとっての、コミュニケーションをとりやすい場ととりにくい場の違いを発見している。		
○授業での様子		
○観察するポイント	○期待される変容	○実態
<b>(記入例)</b> ○発言する生徒の人数の推移	<b>(記入例)</b> ○授業前より発言者が増えている。	
<b>(記入例)</b> ○発言を聞く生徒の態度・教室の雰囲気	<b>(記入例)</b> ○発言者をからかう生徒が減る。 ○解答を間違えたときなどに、雰囲気が悪くならない。	
○その他		

※ 授業づくりの段階で記入できる項目のみ、記入例を載せています。

この「観察表」は、授業後に児童・生徒を観察し、「期待される変容」に対して、「実態」はどうであったかを授業者が判断するために活用します。

## 第3章 実践事例（小学校2例・中学校2例・高等学校2例）

### 1 共通事項と実践事例のページの構成

「どのように」育成するかの四つのポイント(P.10)を授業づくりのために、より具体的な手順として示しました。

「どんな手順で授業づくりをするの？」

- ① 児童・生徒の課題を見付ける
- ② 目指す児童・生徒像をイメージする
- ③ 「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」から、  
①の課題と②の児童・生徒像につながる項目を選び授業のねらいとする
- ④ 授業のねらいを実現するために身に付けさせたい力を決める
- ⑤ 授業後の児童・生徒に期待される変容を「観察表」に具体的に記す
- ⑥ 授業のねらいや「観察表」の内容が実現するような活動を考え学習指導案を作成する

実践事例には、どのように授業づくりを行ったかを、次の形式で紹介しています。①～⑥の欄は、上記の手順に対応しています。下線の部分は、授業者が①～⑥を関連付けて考えやすくなるように言葉を添えました。

#### 授業づくり

- |   |       |                      |
|---|-------|----------------------|
| ① | _____ | という課題から              |
| ② | _____ | になってほしい。そのために        |
| ③ | _____ | という授業のねらいで           |
| ④ | _____ | を身に付けさせよう！すると        |
| ⑤ | _____ | という変化が見られるだろう。このために、 |
| ⑥ | _____ | という授業にしよう！           |

また検証授業に係る「事前・当日・事後」の流れも、児童・生徒が、授業のねらいを意識して授業に参加し、授業後コミュニケーション能力が育成されたかを判断できるように、次のように行いました。

事前：児童・生徒に、コミュニケーション能力を身に付けるための授業を行うことを予告し、アンケート調査を行う  
当日：授業の始めにねらいを確認し、授業の終わりに振り返りシートに記入させる  
事後：授業後、数日置いてアンケート調査を行う  
「観察表」の内容が実現できているか、一定期間観察する

各実践事例は4ページ構成となっていて、各ページには次の内容が記されています。

「どんな実践をしたの？」

1

授業づくり

授業づくりのポイント

2

本時のねらい  
と授業の流れ

3

活動の様子

児童・生徒  
の記述から

4

ワークシート  
映像資料等

授業者のつぶやき

## 2 A小学校（3年生）の実践事例



### 授業づくり

- ① いつも同じ集団の友達と行動を共にすることにこだわり、他の人と関わることを避ける

という課題から

- ② 仲の良い人以外とも自らコミュニケーションをとれる人

になってほしい。そのために

- ③ 「A相手意識」オ 相手の状況を意識して、コミュニケーションをとりやすい場を考え、自ら作ろうとしている

という授業のねらいで

- ④ 相手を思いやると共に、相手の状況を意識する力

を身に付けさせよう！すると

- ⑤ いつもは行動を共にしない友達の様子を、気に掛けるようになる

という変化が見られるだろう。このために、

- ⑥ 友達が「頭が痛そうにしている」、「一人でこっちを見ている」、「本を読んでいる」という三つの場面で、どう声を掛けるかを考えさせる

という授業にしよう！

### 授業づくりのポイント

- ① 「どうしてそう声を掛けたか」を考えると、「相手の様子」を根拠として挙げられるようにする
- ② 終末に「友達に話しかけるときに大切なこと」として、「友達の様子や気持ちをくみ取ること」ということに気付けるようにする

## 本時のねらいと授業の流れ

相手の状況を意識して、コミュニケーションをとりやすい場を考え、自ら作ろうとしている

	児童の活動	指導上の留意点
導入	1 休み時間、一人ぼっちになったときの様子と、そのときの気持ちを想起する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">休み時間や授業中に一人で過ごしたことはありますか</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドッジボールに入れなかった</li> <li>・話に入れなかった</li> <li>・つまらなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間に入りたいけれども、声を掛けることにためらいを感じる思いを共有させる。</li> <li>・一人で過ごしたい場合もあることを確認する。</li> </ul>
展開	2 一人で過ごしている友達に掛ける言葉について考える。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達の様子を見てあなたならどうしますか</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 頭が痛そうにしている場合</li> <li>(2) こつちをじっと見ている場合</li> <li>(3) 本を読んでいる場合</li> </ul>	<div style="border: 1px solid blue; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">授業づくりのポイント①</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一場面ずつ全体でその場の状況や相手の様子を確認してから、個人でワークシートに記入させる。</li> <li>・相手の様子に応じた言葉掛けや対応がとれるようにする。</li> <li>・掛ける言葉や行動を、全体で共有する。</li> </ul>
展開	3 グループになって、場面に応じた言葉掛けや対応を実践する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">言葉の他に何に気を付けたいかな</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声、言い方   ・目線</li> <li>・表情           ・距離</li> <li>・身振り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三つの場面それぞれについて誘う役と誘われる役に役割を分担して行わせる。</li> <li>・四人グループのところは、一人に良かったところについてコメントをさせる。</li> <li>・言葉以外の意識したい点について投げ掛ける。</li> <li>・誘われる役の演技に合わせた対応が取れるように、相手の様子をよく見るように声掛けをする。</li> </ul>
終末	4 相手を意識したコミュニケーションについて考える。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達に話しかけるのに大切なことはなんだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の様子を見る</li> <li>・友達がどうしてほしいかを考える</li> </ul>	<div style="border: 1px solid blue; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">授業づくりのポイント②</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数グループに発表させ、言葉以外のコミュニケーションの良いところを意識させる。</li> <li>・仲間に入れることが目的でなく、相手の思いをくみ取ったり、相手が嫌な思いをしないように考えたりして行動することの大切さに気付かせる。</li> </ul>
終末	5 授業の振り返りを記入する。	

※ この授業の流れは、授業者が作成した指導案を抜粋し加工したものです。

## 活動の様子

それぞれの場面で「どう声を掛けるか」と問い掛けると、具体的にセリフを挙げる児童や対応の仕方として保健室に連れて行くなどの行動まで答える児童など、様々な意見が出ました。また、「本を読んでいる友達」にどう声を掛けるかを考えるときは、声を掛けようと思わない児童が、「なんで声を掛ける必要があるの？」と悩んでしまいました。それを聞いた授業者が、「なんで悩んでいる人がいるのかな？」と全体に向けて問い掛けると、「この友達は一人で本を読みたくて読んでいると思っているから」という意見や、「もしかしたら、仲間に入れてって言えないから本を読んでいるのかも」という意見も出ました。そのやりとりから、いつもなら、声を掛けようとは思わない状況でも、相手の立場に立ってみると、声を掛けた方が良い状況もあると気付き、今までとは違う接し方があることに多くの児童が気付きました。

## 児童・生徒の記述から

### 授業のねらいに関する記述

- 相手の様子を見て話す。
- 話す相手の方を見て、今話しているのかを考えて話す。
- 相手が聞きたくないときは、無理やり話をしない。
- いやな言葉を言わないで、周りの空気を読んで、相手が話しやすいようにする。
- 自分のことだけではなくて、相手のことを考えて、相手が話しやすいように、静かに話す人を見て聞く。

### 行動の変容に関する記述

- 一人でつまらなそうにしていた友達に、「一緒に遊ぶ？」と優しく笑顔で聞くことができた。
- 自分の知っていることを伝えるときに、優しく伝えることができた。

### その他気付いたことに関する記述

- 相手のことを意識するということは、相手の気持ちを大切にすることだと思った。
- 友達には優しく話しかけた方が良いことが分かった。
- けんかしているように、強い言い方をしない。
- 初めて話す人に、「怖い人」だと思われないように笑顔で話す。

ワークシート・映像資料等

状況が具体的に示されていて、個人でも考えやすい

発言を板書した後、一人ひとりに理由を聞いた

A小学校 授業者のつぶやき

「観察表」には、いつも行動を共にしない友達の様子を気に掛けるようになると記入しましたが、小学校3年生には、少し難しかったようです。しかし、今回の授業で、「相手の立場」は、自分の考えで判断するのではなく、相手の状況や思いから判断するということに、多くの児童が気付けたと思います。



### 3 B小学校（5年生）の実践事例



#### 授業づくり

- ① 話合いのとき、決まった児童が発言したり、仲の良い友達としか話さない児童がいる

という課題から

- ② 固定観念を持つことなく、多くの人と関われる人

になってほしい。そのために

- ③ 「B目的意識」イ 目的に応じて、みんなの思いや考えを聞き取ることの大切さや有効性に気付いている

という授業のねらいで

- ④ 友達の新たな一面を発見すると共に、相手の思いや考えを聞き取る力

を身に付けさせよう！すると

- ⑤ 友達の考えを聞くことが楽しくなったり、あまり話さない友達に興味がわいたりする

という変化が見られるだろう。このために、

- ⑥ 「好きな食べ物」や「好きな言葉」などの情報だけで、友達の誰かを当てるクイズに正解するために、クラス全員にインタビューをして情報を集める

という授業にしよう！

#### 授業づくりのポイント

- ① 情報を収集することの効果을 事前に考えさせ、それを実感するような活動にする
- ② 情報収集がねらいなので、収集したみんなの意見についての解説や要約が必要とならない項目を考える

## 本時のねらいと授業の流れ

目的に応じて、みんなの思いや考えを聞き取ることの大切さや有効性に気付く

	児童の活動	指導上の留意点
導入	1 授業のねらいについて考える。(事前) 友達の思いや考えを聞くことについて考えてみよう。	<div style="border: 1px solid black; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">授業づくりのポイント①</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の思いや考えを聞くとどんな良いことがあるかを児童に考えさせる。</li> <li>・前学年の担任を取り上げる。</li> <li>・ねらいをしっかりと確認する。</li> </ul>
	2 ウォンテッドシート(例)を見て、誰か推測する。 3 本時のねらいを確認する。	
展開	4 ゲームのルールを確認する。 <div style="border: 1px solid black; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">授業づくりのポイント②</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目 (1) 好きな色 (2) 好きな食べ物 (3) 好きなテレビ番組 (4) 苦手なこと (5) はまっていること (6) クラスをよりよくするためにできることの六つにする。</li> </ul>
	5 グループで、聞き取りの方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり話さない友達の情報を聞き取ることが大事ではないかと呼びかける。</li> <li>・投げやりな会話にならないように、きちんと立ち止まって聞き取り、挨拶もするようにする。</li> </ul>
	6 それぞれの方法で、聞き取りに行く。 7 グループで、貼り出されたウォンテッドシートを見て、誰かを推測して、解答シートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の四方に10枚のウォンテッドシートを掲示する。</li> <li>・聞き取った情報と知っている情報を合わせて答えを導かせるようにする。</li> </ul>
終末	8 答え合わせをする。	
	9 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の特性や考えを知る楽しさに気付かせる。</li> </ul>

※ この授業の流れは、授業者が作成した指導案を抜粋し加工したものです。

## 活動の様子

授業では、インタビューをして、友達の情報を集める際、普段は関わりを持たない児童同士が、笑顔で情報交換をしていました。教室のあちこちで「えっ知らなかったなあ、意外！」や「私もそのドラマ見ているよ！」などの声が聞こえました。授業づくりの際に、「普段の様子から、聞き取った情報をメモさせながらインタビューさせると、聞き取ることには集中できない」というクラスの実態から、インタビューの最中はメモを取らせずに活動させました。その結果、聞き取った情報を忘れないように、ポイントを絞って数人分を覚え、自分の席に戻ってまとめてメモを取るなど、自分なりに工夫する姿が見られました。

## 児童・生徒の記述から

### 授業のねらいに関する記述

- 相手の考えをちゃんと聞いて理解することが大切。
- 自分の意見と「違う」と「同じ」を見付けながら聞くとよく理解できる。
- 相手の話を聞きながら、自分との共通点を発見するのは楽しい。
- 友達にインタビューしたら予想した答えと全然違って、新しい発見ができた。

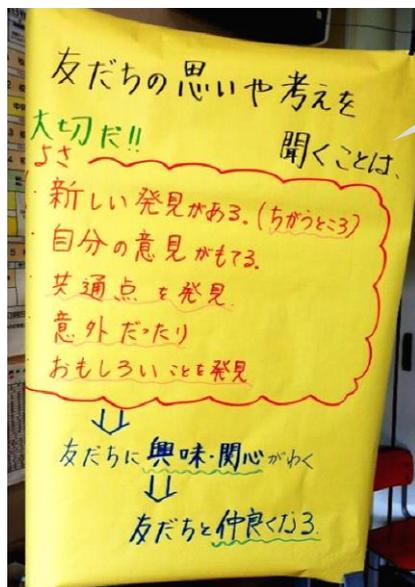
### 行動の変容に関する記述

- クラスの中で、話せる人が増えた。
- 友達の好きな食べ物が意外だったりして、話す話題が増えた。
- 以前より、自分から話し掛けられる人が増えた。
- 話したことがない人と話をするようになった。

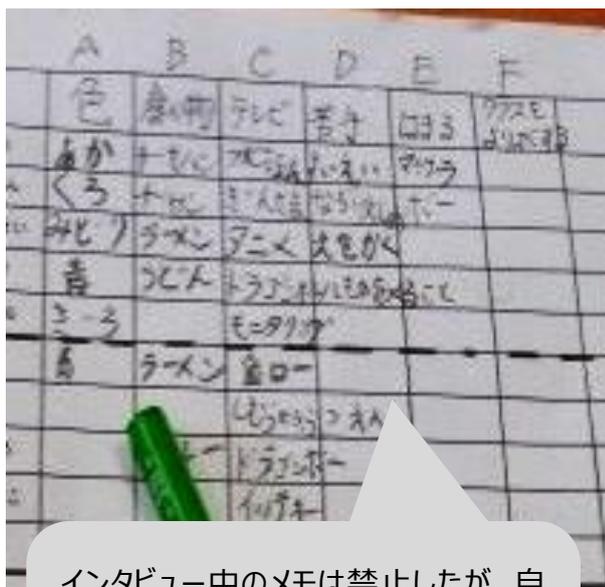
### その他気付いたことに関する記述

- 友達の意外な一面を知り、興味がわいた。
- 相手の知らない一面を知ることができたら、今以上に仲良くなれると思った。
- 相手のことを知るの楽しいと思った。

## ワークシート・映像資料等



事前の取組で児童から  
出た意見



インタビュー中のメモは禁止したが、自分の席に戻って、簡単なメモをすることは許可したので、児童は、自分で項目を書き、簡単な言葉で記入していた

**④ - WANTED!**

この人、探しています。

**A 好きな色**  
 

**B 好きな食べ物**

**C 好きなテレビ番組**

**D 苦手なこと**

**E はまっていること**

**F よりよくなりたいこと**

別々の人を示す 10 枚のシートが、教室に貼り出され、グループごとに誰のことか考えた

## B 小学校 授業者のつぶやき

意図的にコミュニケーション能力の育成をすると、児童がコミュニケーション能力を身に付けることができた実感があるので、学校生活のどの場面で、その力を活用できるかをイメージしやすくなると感じました。「観点表」の全ての項目を扱うのが効果的ですが、実態に合っていれば、一項目でも成果は出ると思います。しかし、項目の中に、小学生には難しいと思われるものもありました。



## 4 C中学校（1年生）の実践事例



### 授業づくり

- ① 話し合いの中で自分の考えを分かりやすく伝えたり効果的に話し合いを進めたりすることが苦手な生徒が多い

という課題から

- ② 自分の考えを伝えたり、話し合いを効果的に進めたりすることができる人

になってほしい。そのために

- ③ 「B目的意識」 E 目的に応じて、みんなの思いや考えを一つにまとめることの大切さや有効性に気付いている

という授業のねらいで

- ④ 話し合いの中で、合意形成する力

を身に付けさせよう！すると

- ⑤ 結論だけではなく、理由に重きを置いて他の人の意見を聞く

という変化が見られるだろう。このために、

- ⑥ 班別行動中の昼食場所を決めるという設定で、全員が納得する昼食場所を多数決やじゃんけんを用いずに決める

という授業にしよう！

### 授業づくりのポイント

- ① 合意形成の具体的な方法を理解させ、その方法の手順を明確に示し、実践させる
- ② 生徒一人ひとりが、合意形成する際に大切なことは何かを、授業で実感したことから考えられるようにする

## 本時のねらいと授業の流れ

目的に応じて、みんなの思いや考えを一つにまとめることの大切さや有効性に気付く

	生徒の活動	指導上の留意点
導入	1 本時のねらいを理解する。 2 今日の活動を理解する。 昼食場所を決定するときの条件を知る。	・コミュニケーション能力を高めるための授業であることを理解させる。
展開	3 自分の考えをワークシートに記入し、カードにも記入する。 4 昼食場所を決定するまでの話し合いの手順を理解する。 ・個人で記入したカードを、ホワイトボードに並べてそれらを発表しながら話し合いを進める。 5 グループで話し合い、昼食場所を決定する。 6 決定した内容や話し合いの様子をワークシートに記入する。	・理由を詳しく書くことと、複数書いて良いことを伝える。 ・ <b>全員の理由を整理したり分類したりしながら検討し、採用されなかった意見に対しての理由も明確にする。</b> <div style="border: 1px solid black; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>授業づくりのポイント①</b> </div> ・それぞれが選んだ理由を基に、全員が納得できるまで話し合いを進めることが重要であることを意識させる。 ・机間指導をしながら、話し合いが停滞しているグループを支援する。
終末	7 <b>みんなの思いや考えを一つにまとめるときに大切なことを考える。</b> 8 振り返りシートに記入し、今後の生活の中の活用場面を予想する。	<div style="border: 1px solid black; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>授業づくりのポイント②</b> </div> ・具体的な生活場面を思い浮かべさせる。

※ この授業の流れは、授業者が作成した指導案を抜粋し加工したものです。

## 活動の様子

生徒が選んだ昼食場所そのものよりも、その場所を選んだ理由に注目できるように、話し合いの前にワークシートに記入させ、話し合うときには、理由を丁寧に扱うように授業者が声を掛けていました。その結果、普段はあまり意見を言わない生徒も、理由を他の生徒に分かりやすく伝える姿が見られました。また、じゃんけんや多数決を禁じ、合意形成までの経緯に重きを置いた活動を行ったので、結論が出ない班がありました。授業者は、振り返りの際に、結論が出た班も出ない班も、どのような話し合いが行われ、みんなの「理由」がどのように扱われたかという話し合いの経緯を振り返りシートに記入するように促しました。

## 児童・生徒の記述から

### 授業のねらいに関する記述

- 相手の考えを理解し共感できたことは素直に伝えて、考えをまとめていくことが大切だと思った。
- 相手の意見にすぐ反対をするのではなく、しっかり聞いてから、自分の意見を言うようにした。
- みんなの意見を聞き、思いや考えをしっかりと受け止めてから、賛成や反対意見を言い、まとめることが大切だと感じた。
- 最初は意見がバラバラだったけど、理由などを聞き、「確かにそうだな」と思ったので、決まったときは納得できた。

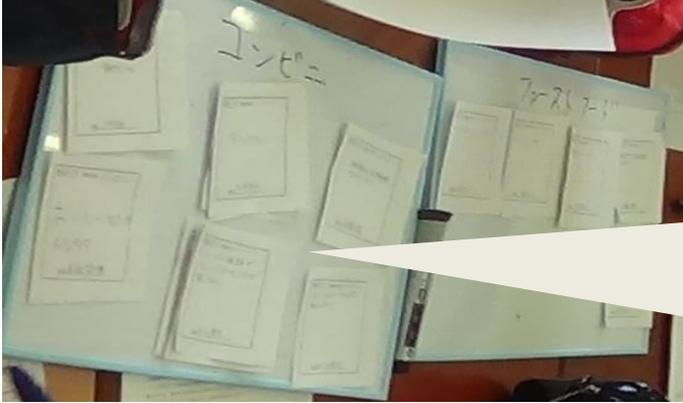
### 行動の変容に関する記述

- 話し合いのときに、自分の意見を少しだけ言えるようになった。
- 友達と言い合いになったとき、相手の意見を聞いてから自分の意見を言った。
- 家族で外食の場所を決めるときに、スムーズに決めることができた。

### その他気付いたことに関する記述

- 普段あまり意見を出さない人でも、ちゃんと意見を持っていることに気付いた。
- 「絶対に自分の意見が正しい」と思わず、相手の意見について冷静に考えることが大切だと思った。
- 多数決ではなく、全員が納得するように話し合いをすることが大切だと分かった。
- 話し合いに参加していない人に「どう思う？」などと意見を聞いて、全員の意見を取り入れることが大切だと思った。

## ワークシート・映像資料等



班員が、理由を書き出したカードをホワイトボードに並べて話し合った

- 美術館に近いから
  - メニューが豊富だから
  - おしゃべりしやすいから
- など、様々な理由を分類している

### ◎ 決定するまでの手順

- 1 個人で考え、カードにも記入する。
- 2 司会を決める。
- 3 順番にカードを出しながら、自分の意見と理由を話す。
- 4 話し合い、グループの意見を一つにまとめる。
  - (1) 意見として出された昼食場所をホワイトボードに書き、理由カードを置く。
  - (2) 理由を分類したり、似たものを合せたり、その理由が当てはまる他の方法にかえたりして検討する。
  - (3) どうしても採用されない昼食場所に関しては、その理由をどのように処理したり、解決したりするのか、全員で話し合う。
  - \* ホワイトボードには、書き込みをしてよい。
  - \* **全員が納得するまで**話し合いによる検討を続ける。
  - \* 今回は「多数決」「じゃんけん」による決定は避ける。
- 5 グループで決定した昼食場所、話し合いの様子をワークシートに記入する。

生徒に配付されたワークシートに書かれた合意形成までの手順

## C 中学校 授業者のつぶやき

「結論が出なかった＝話し合いがうまくいかなかった」と思う生徒がいます。その時々で、結論を出すことを優先するのか、合意形成までの経緯を重視するのか、授業のねらいを明確にすることが大切だと感じました。生徒にコミュニケーション能力を育成するという取組は時間が掛かるけれど、一つひとつ積み上げていくことが効果的だと感じました。



## 5 D中学校（1年生）の実践事例



### 授業づくり

- ① 言って良いことと悪いことの区別ができず、心無い言動からトラブルに発展してしまうことがある

という課題から

- ② 相手の気持ちを考えながら、コミュニケーションをとれる人

になってほしい。そのために

- ③ 「A相手意識」ア 相手が自分のコミュニケーションのとり方に影響を及ぼしていることに気付いている

という授業のねらいで

- ④ 相手の言動により自分の気持ちが変わることに気づき、それを居心地の良いクラスづくりに役立てようとする力

を身に付けさせよう！すると

- ⑤ 相手の立場に立った言葉掛けができるようになる

という変化が見られるだろう。このために、

- ⑥ 相手の言葉により、自分の気持ちや態度が変わることに気付かせ、そこから、自分は、相手にどんな言葉掛けをしたら良いかを考える

という授業にしよう！

### 授業づくりのポイント

- ① 自分のコミュニケーションのとり方を振り返る前に、相手の言動によって、自分の気持ちや態度に影響があることに気付かせる
- ② 自分のコミュニケーションのとり方をどう改善できるか、具体的な場面を想定して考えさせる

## 本時のねらいと授業の流れ

相手が自分のコミュニケーションのとり方に影響を及ぼしていることに気付く

	生徒の活動	指導上の留意点
導入	1 相手によって自分の話し方は変わるかどうかを考える。 2 本時のねらいを理解する。	・相手により、話し方が変わることを確認する。
展開	3 「言葉とそれを聞いたときの感情」、「言った人と感情の関係」について考える。  <b>4 言われて「うれしかった言葉」「悲しかった言葉」と、なぜそう思ったのかを発表する。</b>  5 コミュニケーションの例を挙げ、どんな会話だとうれしい気持ちになるかを考える。  <b>6 うれしい気持ちになる会話をヒントに、言われて悲しかった言葉は、どのように伝えていくと良いかを考える。</b>  7 こんな言い方すると、悲しい気持ちが和らぐというアイデアを発表する。	・言われてうれしかった言葉、悲しかった言葉、誰に言われたかを挙げさせる。  ・生徒の意見を聞き、板書して、全員がイメージできるようにする。 ・自分とは違う感じ方があることに気付けるようにする。  ・具体的な事例からイメージしやすくする。  ・悲しい気持ちになる内容は伝えなくてよいというものではないということを理解させる。 ・無条件に言うてはいけない言葉もあることを伝える。  ・人それぞれ感じ方の違いを尊重できるようにする。
終末	8 相手がどんな言葉を掛けてくれるかによって、自分の気持ちや態度が変わることを確認する。その例として家族の言葉掛けで、難病を克服した少女の話を朗読する。 9 振り返りシートに記入し、今後の自分の行動の変化を予想する。	・授業の内容と朗読とを合わせて、今後のコミュニケーションの取り方を考えさせる。

※ この授業の流れは、授業者が作成した指導案を抜粋し加工したものです。

## 活動の様子

生徒同士では、恥ずかしがったり相手の反応を気にしたりして、素直な気持ちを表現することができないと考え、ワークシートの記述と任意の発言により授業を展開しました。その結果、生徒が自分のコミュニケーションのとり方やクラスの様子などについて、個人でじっくり考える機会になりました。また、手を挙げて発言しない生徒も、自分の席の近くの友達に、自分の考えを伝える姿が見られました。授業中は、同じ生徒が授業者とやりとりをする場面が多かったのですが、発言をしなかった生徒のワークシートには、「言い方しだいで人を不快にさせることが分かった」や「このクラスは誰か一人の言葉にみんなが反応するのだな」など、個人や学級のコミュニケーションのとり方について気付いたことや感じたことが書かれていました。そのことから、発言した生徒も発言しなかった生徒も、授業に主体的に取り組んでいたことが分かりました。

## 児童・生徒の記述から

### 授業のねらいに関する記述

- 言い方しだいで、人を不快にさせることが分かった。
- 相手によって、話し方が変わることが分かった。
- 言い方を変えるだけで、相手の気持ちが違う。

### 行動の変容に関する記述

- 言い方を優しくしたら母親とのけんかが収まった。
- 相手の目を見て話すようになった。
- 友達とけんかをしないように話すことができた。
- 優しく話しかけることができた。

### その他気付いたことに関する記述

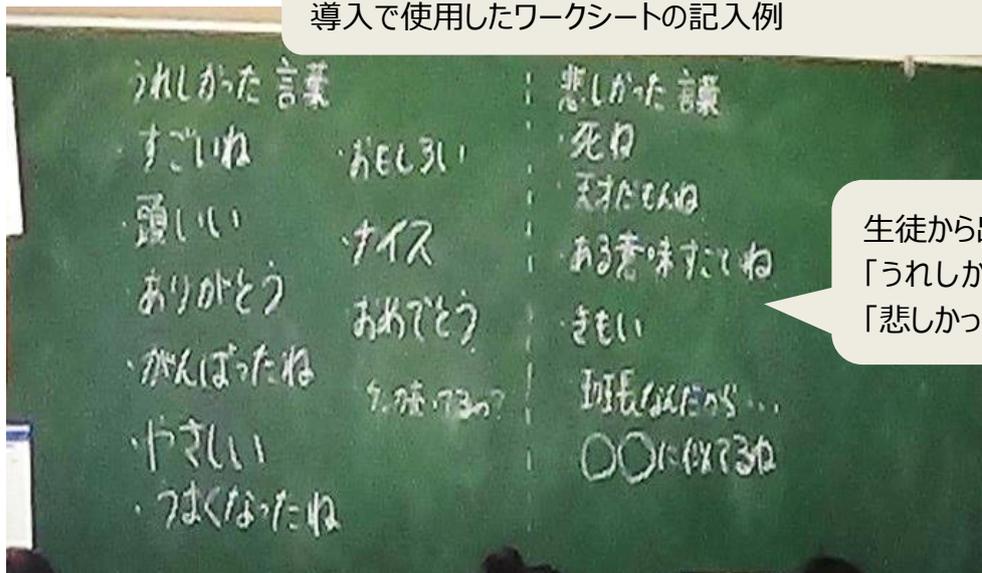
- 人を傷つけるような言葉は使わないようにしようと思った。
- 思わぬ言葉で人を傷つけるということを学んだ。
- このクラスは、いろいろな言葉が横行しているのだと思った。
- このクラスは、誰か一人の言葉にみんなが反応するのだな。

## ワークシート・映像資料等

話す相手によって話し方は変わることがありますか？

あなたの様子	どんな相手	その理由
話すのが楽しくなる	Aちゃん	いつも明るいから
話しやすい	Bちゃん	聞き上手だから
緊張する	先生	近寄りたくない・・・
優しく語りかける	Cちゃん	優しいから
厳しい口調になる	お母さん	いつも一緒にいるから
どう受け止められるか不安になる	お父さん	厳しいから

「相手によって自分の話し方や態度がどう変わるかを考える」という導入で使用したワークシートの記入例



生徒から出た  
「うれしかった言葉」と  
「悲しかった言葉」

## D 中学校 授業者のつぶやき

子どもたちは、日常のコミュニケーションから多くのことを学んでいます。それを補ったり定着させたりする形で今回のような授業を行うことは、意味のあることだと感じました。また、久しぶりに自分の授業をビデオに撮って見ましたが、授業中には拾いきれなかった授業のねらいに即した生徒の発言や授業の改善点などを発見できました。



## 6 E 高等学校（2年生）の実践事例



### 授業づくり

- ① 自分から他者に働きかけることが少なく、相手の考えていることを押し量りながら人間関係を築くことが苦手な生徒が多い

という課題から

- ② 他者の個性を理解し、積極的に関わることができる人

になってほしい。そのために

- ③ 「A相手意識」 E 相手にとって、コミュニケーションをとりやすい場か、とりにくい場かを推測している

という授業のねらいで

- ④ 相手を思いやりながら人間関係を築く力

を身に付けさせよう！すると

- ⑤ グループ活動などで、発言をしない人に意見を聞いたり、考えている人に対して待ってあげたりする

という変化が見られるだろう。このために、

- ⑥ グループの中に、「コミュニケーションが苦手な人」を配役し、その友達に配慮しながら、他者と協力しなければ解決できないゲーム性の高い活動をする

という授業にしよう！

### 授業づくりのポイント

- ① 生徒が、積極的に他者と関わる場面を設定をする
- ② 「小学1年生」役と「照れ屋さん」役の生徒とコミュニケーションをとるためにどんな工夫をしたか、終末や振り返りで自覚を促す

## 本時のねらいと授業の流れ

相手にとって、コミュニケーションをとりやすい場か、とりにくい場かを推測している

	生徒の活動	指導上の留意点
導入	<p>1 本時のねらいと課題を理解する。</p> <p>2 「小学1年生」や「照れ屋さん」は、コミュニケーションに関してどんな特徴があるかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>いくつかの島からなる『宝島』の様子を、それぞれのヒントカードの情報を会話だけで伝え合いながら、模造紙に図や絵を使って描き入れなさい。</b></p> </div> <p>&lt;ルール&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のカードの裏に「小学1年生役」、「照れ屋さん役」と書かれていたら、その役になりきってゲームに参加する。</li> <li>・他の人のカードを見てはいけない。</li> <li>・自分のカードを見せてはいけない。</li> <li>・情報を文字で書いてはいけない。</li> <li>・情報を書き出して表にまとめてはいけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日のLHRの趣旨説明をする。</li> <li>・コミュニケーションをとるときは、どんなことに配慮したら良いかを考えさせる。</li> <li>・課題提示をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p><b>授業づくりのポイント①</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームのルールを説明する。</li> <li>・役割を設定する。</li> <li>・模造紙1枚、マジック（3色）、ヒントカード①～⑥を各グループに配付する。</li> </ul>
展開	<p>3 グループで課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントとなりそうな情報をみんなに伝える。</li> <li>・模造紙にポイントを書く。</li> <li>・役割の生徒はそれらしく振舞う。</li> <li>・周りの生徒は、役割の人がコミュニケーションをとりやすくなるように考えながら活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者は、生徒同士の活動を見守り、できるだけ介入を控える。</li> <li>・役割がある生徒には、その役になりきるように声を掛ける。</li> <li>・周りの生徒には、役割の生徒に配慮し続けるよう声を掛ける。</li> </ul>
終末	<p>4 ゲームを通して、お互いに気付いたことや感じたことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid blue; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p><b>授業づくりのポイント②</b></p> </div> <p>5 振り返りシートに記入し、今後の行動の変化を予想する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正解のプリントを配付する。</li> <li>・ゲーム中に、「小学1年生」や「照れ屋さん」とうまくコミュニケーションをとるために、どのようなことに気を付けたかを中心に発表させる。</li> <li>・振り返りシートを配付する。</li> <li>・本時の活動のまとめをする。</li> </ul>

※ この授業の流れは、授業者が作成した指導案を抜粋し加工したものです。

## 活動の様子

授業者は、日頃指名しなければ発言しないという生徒の実態から、「会話をしなければならない状況」を作り出すために、ゲーム性の高い活動を選びました。役になりきっているため発言を控える生徒や、何をすればよいのか分からないふりをする生徒に、「どんだん話そう！」や「がんばれ！」などと励ましたり、「そのまま一個ずつ読んでもらっていますか」と具体的な指示を出したりして、気を配る生徒の様子が見られました。また、教科の授業ではあまり発言しない生徒たちが、この授業では、グループの話合いの進行役を務めていたり、積極的に発言したりしていました。

## 児童・生徒の記述から

### 授業のねらいに関する記述

- 相手に応じて、話し方や態度を変えることや相手の気持ちを考えることが大切だ。
- 相手の様子を見て、コミュニケーションのとり方を工夫すること。
- 相手が今、何を望んでいて、何を考えているのかを考えることが大切だ。
- 相手の性格に合わせてどのようにコミュニケーションをとるべきかを意識するようになると思う。
- 相手の話し方や様子を見ながら、自分の意見を言う。質問をするときも、相手が答えやすいように聞くようにする。

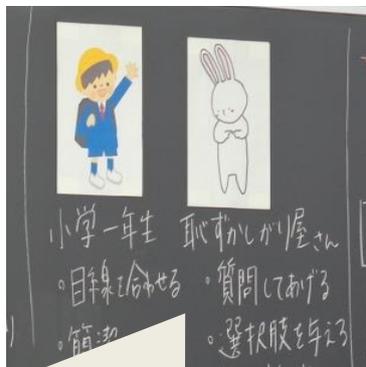
### 行動の変容に関する記述

- 会話する相手のことをよく考えるようになった。
- 相手に分かりやすく伝えることを意識している。

### その他気付いたことに関する記述

- 話合いに参加している人の状況をつかんで話し合えば、スムーズに進む。
- 情報を共有したり、正しく伝えたりするのは難しい。
- いつもあまり話さない人と話すときに、相手を気遣うことは使えると思った。
- 言葉だけで伝えるのは大変だということが分かった。ゆっくり話すなどの工夫が必要だと思った。

## ワークシート・映像資料等



初めに「小学1年生」や「照れ屋さん」は、コミュニケーションに関してどんな特徴があるのか、この役割の生徒にどんな配慮をすると良いかについて共通理解した

情報を出し合いながら  
宝島を模造紙に描く様子



生徒に配付したヒントカードは、グループ内に、同じカードを持っている友達がいないので、自分のカードの情報を必ず伝えなければならない

### ヒントカード①

- ・「滝のある島」の南には、「きりにつつまれた島」があります。
- ・「洞窟のある島」の北東には、サクラノボの木のある島があります。
- ・猿は、ミカンの木に登って遊んでいます。
- ・ウメの木のある島は、その島全体がウメの木でおおわれ、島の中心に赤い箱が隠されています。
- ・リンゴの木には、よくヒヨドリがとまっています。

### ヒントカード④

- ・モモの木の周辺では、いつもネコがじゃれあっています。
- ・「白い砂浜のある島」の北東の方角には、「滝のある島」があります。
- ・宝箱はどの島の何色の箱でしょう。またそれは、島のどこにあるのでしょうか。
- ・ミカンのある島の北東の方角にある島は、白い箱が隠されていて、「真」という文字が入っています。
- ・サクラノボの木のある島の南西の方角には、「洞窟のある島」があります。

## E 高等学校 授業者のつぶやき

日頃、生徒が活発なコミュニケーションをとる場面を、なかなか設定できていないのが現状です。そんな中、クラスの課題を解決するために、身に付けさせたい能力を明確にし、授業を行えたことは大変有意義でした。授業づくりの際、相談できる相手がいたことも、自分にとってプラスになりました。



## 7 F 高等学校（2年生）の実践事例



### 授業づくり

※ 日本史Bにおける実践事例です

- ① みんなの意見や考えを集め、そこから一つの結論を出すという話合いの技術が身に付いていない

という課題から

- ② 場面に応じて、必要なコミュニケーションがとれる人

になってほしい。そのために

- ③ 「B目的意識」オ 自ら設定した目的に応じて、効果的なコミュニケーションの方法を選択している

という授業のねらいで

- ④ 情報を収集したり整理したりする中で、自分の状況を把握しながら活動する力

を身に付けさせよう！すると

- ⑤ 話合いの場で結論を出す際に、多数決などの安易な方法を選択しなくなる

という変化が見られるだろう。このために、

- ⑥ 与えられた情報を、収集するか、分類するか、一つにまとめるかを、生徒自身が、場面に応じて判断しなければならない状況が必然的に作られる

という授業にしよう！

### 授業づくりのポイント

- ① グループづくりを生徒に任せ、なかなか決まらない体験をさせる。そこから、話合いには場面に合った効果的な方法があることを意識させる
- ② 活動のどの場面で、「情報の収集」「情報の整理」「情報の集約」の方法を選択すると効果的か、授業者が具体的なイメージを持って展開を考える

## 本時のねらいと授業の流れ

- 自ら設定した目的に応じて、効果的なコミュニケーションの方法を選択している
- 古代国家の形成について既習事項を確認する（日本史Bのねらい）

	生徒の活動	指導上の留意点
導入	<p>1 本時のねらいを確認する。</p> <p>2 「1」～「5」のカードを持った人が1人ずつ含まれるように、グループづくりをする。</p> <p><b>授業づくりのポイント①</b></p> <p>・情報の処理の方法として、「収集」「整理」「分類」「集約」などがあることを理解する。</p> <p>3 ゲームについての概要を理解する。</p> <p>・ゲームの目標：「白村江の戦いで敗れた際の捕虜を返還してもらうための渡航計画を作成する」</p>	<p>・「コミュニケーション能力の育成」がねらいにあることを明確に伝える。</p> <p>・事前アンケートの結果の概要を交えて説明する。</p> <p>・授業の開始に先立ち、生徒の実態に即して「1」～「5」の数字を40人に割り当てておく。</p> <p>・ゲームの際には、「1」～「5」にはそれぞれ役割及び責任が伴っていることを踏まえてグループを作成させる。</p> <p>・効果的な方法は何かを考えながら活動することを意識させる。</p> <p>・詳細な説明は作業中に行い、概要のみを簡潔に説明する。</p> <p>・メモを取ることを推奨する。</p>
展開	<p><b>4 それぞれ番号ごとの場所に分かれ、自分の役割を確認し必要な情報を収集する。</b></p> <p>・「渡航について」「自分の役割について」「※隠された任務について」</p> <p>・秘匿すべき情報：自分の役割</p> <p>・限定して交わす情報：裏切り者の特定</p> <p>5 グループごとに話し合いを行う。</p> <p>・渡航に関する4つの情報について、論点を整理しながら話し合いを行う。</p> <p>(1) 時期：8世紀初め (2) 航路：北路 (3) 報酬：特産品1年分 (4) 人数：4人</p> <p><b>6 班ごとに集約した情報から導き出した渡航計画を発表する。</b></p>	<p>・掲示用シートには、キーワードを視認しやすくなるよう工夫する。</p> <p>1 大使（リーダー） 2 大宰府の役人（留保＝裏切り者） 3 留学生（賛同） 4 学問僧（記録） 5 船長（調整）</p> <p>※（ ）内の役割は、他の班員に告げてはならない。</p> <p>※裏切り者の存在は、1と3の役割の生徒のみが知る。</p> <p>※2は、自分が裏切り者であることを知らない。</p> <p>・ゲームを円滑に進めるため、他の班員に伝達してよいことと、そうでないことの区別について意識させる。</p> <p>・渡航についての情報をすり合わせる際、教科書や授業プリントなどの教材を参照してもよいことを伝える。</p> <p><b>授業づくりのポイント②</b></p> <p>・時期、航路、報酬、人数（誰を含めないか）を発表させる。</p>
終末	<p>7 知識の確認を行う。</p> <p>8 振り返りを行う。</p> <p><b>授業づくりのポイント②</b></p>	<p>・既習事項と予習事項に区分する（予習事項：遣唐使の航路）</p>

※ この授業の流れは、授業者が作成した指導案を抜粋し加工したものです。

## 活動の様子

授業者から、日頃集中して授業に取り組めない生徒が多いと聞いていました。しかし、二時間続きで行われた授業で、ほとんどの生徒が休み時間を取り忘れるほど集中して活動していました。グループごとの話し合いが始まったばかりのときは、個々に与えられた別々の情報を、伝えるべき内容と伝えてはいけない内容に分けることに苦労したり、どの情報から出し合えばいいのかで意見が割れたり、話し合いがスムーズに進まないグループが多くみられました。しかし、時間が経つにつれ、課題を解決するために、自分に与えられた情報を糸口に、同じグループのメンバーと情報を交換したり、分類したり、日本史Bの教科書から情報を探したりするなど、試行錯誤しながらも解決策を見つけ出すグループが増えてきました。全員から情報を収集しなければならないので、「順番に情報を出し合おう！」や「まだ言っていないことはない？」など、円滑な話し合いを行うための声掛けも聞かれました。

## 児童・生徒の記述から

### 授業のねらいに関する記述

- みんなの意見を聞き、項目に分けて話を進めていくことが大切だと思った。
- 意思の疎通を図ることが大切だ。
- みんなから聞いた話をまとめることが大切だと思う。
- みんなが情報を出し合うことが大切だと思った。
- 必要な情報と必要のない情報をきちんと分けることが大切だ。

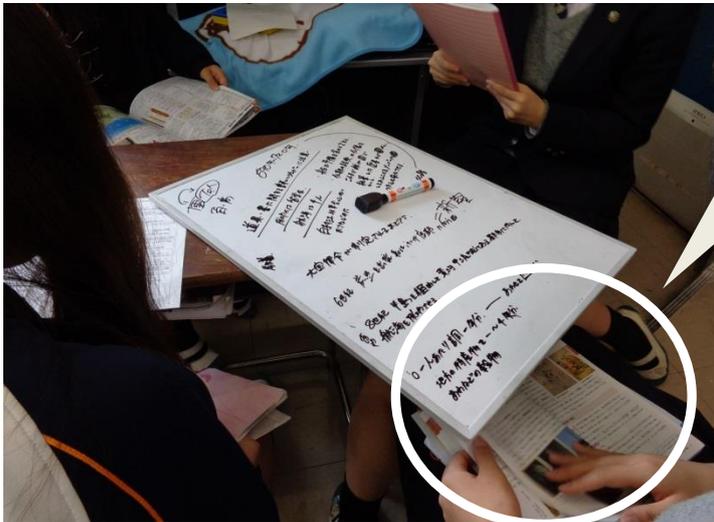
### 行動の変容に関する記述

- 知らない人にも自分の意見を言えるようになると思う。

### その他気付いたことに関する記述

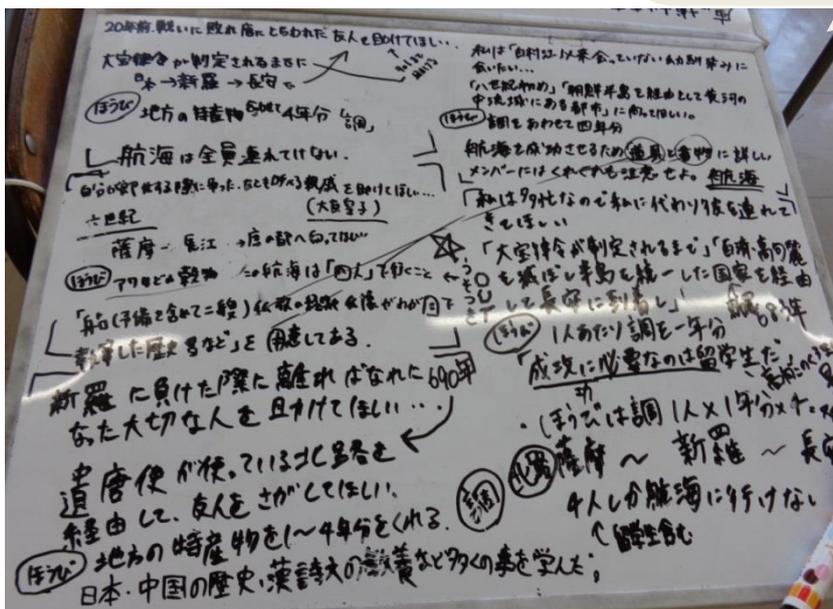
- 話し合いの目的から外れないことが大切だと実感した。
- その場の状況を把握して発言することが大切だ。
- 自分のことばかり主張しないで、相手の話を聞く。
- 正しく情報を伝えることと、正しく情報を理解することが難しい。
- 相手が話しやすい状況を作ってあげる。

## ワークシート・映像資料等



教科書やこれまでの授業で配られたプリントなどから情報収集しながら、ホワイトボードに情報を整理している様子

「渡航について」「自分の役割について」、班ごとに出した結論を、話し合いの際に活用したホワイトボードを提示して発表した



## F 高等学校 授業者のつぶやき

日本史Bのねらいと、コミュニケーション能力育成のねらいを実現するための授業準備が大変でしたが、コミュニケーション能力の育成については手応えを感じました。授業の中で、生徒が自分の予想以上に、主体的に取り組み、力を付けたと感じられたからです。他の先生方にも試してほしいと思いました。



## 本冊子を活用するに当たり

本冊子で述べてきたコミュニケーション能力育成のための具体的な授業づくりの方策は、先生方が教科等の指導の中で、当たり前に行っていることを順序立てて提示したものです。しかし、教科等の指導とコミュニケーション能力の育成には大きな違いがあります。

教科等の指導は、どんな資質・能力を育成するのかが学習指導要領により定められています。一方、コミュニケーション能力は、児童・生徒の実態から、先生方が感じている「こんな児童・生徒になってほしい」という思いを反映させて、「何を」育成するかを決めることができます。先生方が、目の前の児童・生徒が人と関わりながら生きていくために必要だと感じた力を、育成すべきコミュニケーション能力として身に付けさせることができるということです。

しかし、児童・生徒が「コミュニケーション能力を学校で育成された」という実感を持って社会に出るためには、個々の先生方の取組だけでは困難です。学校全体での組織的な取組をとってコミュニケーション能力を育成してください。

なお、本冊子の「児童・生徒のコミュニケーション能力育成に関する観点表」の項目の中には、実践事例として提示していないものがあります。そこで、〈資料〉に授業づくりの参考となるよう、「授業づくりの例」(P.42)を掲載しています。こちらも参考にしてください。



## 〈資料〉

### 「コミュニケーションに関するアンケート（児童用）」

コミュニケーションに関する質問に教えてください。問1～10は、(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない、の中から、それぞれ1つえらび、○でかこんでください。問11・12は、自分のことばで教えてください。

※ このアンケートでの「コミュニケーション」とは、話し合いやおしゃべりや発表など、伝え合う活動のすべてをふくみます。

- 1 あいてのようすや、あいてが「だれ」かによって、自分のコミュニケーションのとり方は変わると思う。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 2 自分とあいてとの関係や、自分のたいどによって、あいてのコミュニケーションのとり方は変わると思う。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 3 自分は、どんなときにコミュニケーションをとりやすいのか、またはとりにくいのかを、している。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 4 あいてが、どんなときにコミュニケーションをとりやすいのか、またはとりにくいのかをよそうることができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 5 その場にいる人が、コミュニケーションをとりやすいように、くふうすることができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 6 話し合いのとき、話のないようやじょうほうを、みんなで同じようにりかひすることができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 7 話し合いのとき、みんなの思いや考えなどを、りかひし、聞き取ることができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 8 話し合いのとき、みんなの思いや考えなどを、ないようごとに、いくつかのしゅるいにわけることができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 9 話し合いのとき、みんなの思いや考えなどを、一つにまとめることができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 10 目的によって、いちばんよい話し合いの方法をえらぶことができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 11 コミュニケーションをとるときに、大切なことは何ですか。
- 12 話し合いを進めるときに、大切なことは何ですか。

これでアンケートはおわりです。ありがとうございました。

## 「コミュニケーションに関するアンケート（生徒用）」

コミュニケーションに関する質問に教えてください。問1～10は、(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない、の中から、それぞれ1つ選び、○でかこんでください。問11・12は、記述で教えてください。

※ このアンケートでの「コミュニケーション」とは、話し合いやおしゃべりや発表など、伝え合う活動の全てをふくみます。

- 1 相手によって、自分のコミュニケーションの取り方は変わると思う。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 2 自分と相手との関係や、自分の態度や発言によって、相手のコミュニケーションの取り方は変わると思う。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 3 自分にとって、どんな場面がコミュニケーションを取りやすいのか、または取りにくいのか、その違いが分かっている。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 4 相手にとって、どんな場面がコミュニケーションを取りやすいのか、または取りにくいのかを予想することができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 5 その場にいる人が、コミュニケーションを取りやすいように、発言や態度などを工夫することができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 6 話し合いの場面で、みんなで情報を共有できる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 7 話し合いの場面で、みんなの思いや考えなどを、聞き取ることができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 8 話し合いの場面で、みんなの思いや考えなどを、項目を考えて分類することができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 9 話し合いの場面で、みんなの思いや考えなどを、まとめることができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 10 目的に合わせて、効果的な話し合いの方法を選ぶことができる。  
(1) とても思う (2) 思う (3) あまり思わない (4) まったく思わない
- 11 コミュニケーションを取るときに、大切なことは何ですか。

- 12 話し合いを進めるときに、大切なことは何ですか。

これでアンケートは終わりです。ありがとうございました。

## 「授業づくりの例」

育成するべき能力		項目（児童・生徒の具体的な姿）				
		ア	イ	ウ	エ	オ
<b>A 相手の状況を意識してコミュニケーションをとる能力</b>		相手が自分のコミュニケーションのとり方に影響を及ぼしていることに気付いている。	自分が相手のコミュニケーションのとり方に影響を及ぼしていることに気付いている。	自分にとっての、コミュニケーションをとりやすい場ととりにくい場の違いを発見している。	相手にとって、コミュニケーションをとりやすい場か、とりにくい場かを推測している。	相手の状況を意識して、コミュニケーションをとりやすい場を考え、自ら作ろうとしている。
授業づくりの例	児童・生徒の実態	同じ学級の友だちでも、相手によって、態度を変える姿が見られる。	人の話を聞く態度が良くないときがある。	友だちの発言に対してからかいがある。	グループワークなどで、参加していない子どもがいる。	話合いの時に、自分の意見ばかりをいう子どもがいる。
	活動案	「校長先生」「友達」「好きなアイドル」「先輩」などと話す時、どんな風に態度が変わるかを、理由と共に考える。	自分は、話しかけられやすい人か、そうでないか、理由も考える。	「悩みを相談する」「発表する」などの場面で、コミュニケーションをとりやすい相手や場所を考える。	漫画や小説の場面を切り取り、なぜ登場人物は「告白しづらいか」「注意しづらいか」を相手や周囲の様子から推測する。	「一週間休んで登校する」とき、どんな環境で迎え入れてあげたらよいか、実際の場面をロールプレイで作り上げる。
	予想される児童・生徒の気付き	今まで気にしていなかったけど、相手によって、態度が変わっていたことに気が付いた。	友達が、よそよそしいときに相手を責めていたけれど、そんなときは自分の態度を見直してみようと思った。	人だけではなく、場所も自分のコミュニケーションのとり方に影響しているとは思わなかった。	自分の考えるコミュニケーションをとりやすい状況とみんなが考える状況は違った。	注目しないであげるのも、相手への思いやりの一つになるなんて、面白いと思った。
育成するべき能力		項目（児童・生徒の具体的な姿）				
B 目的に応じたコミュニケーションをとる能力		ア	イ	ウ	エ	オ
目的や与えられた指示などをみんなで共通理解することの大切さや有効性に気付いている。		目的に応じて、みんなの思いや考えを聞き取ることの大切さや有効性に気付いている。	目的に応じて、みんなの思いや考えを聞き取ることの大切さや有効性に気付いている。	目的に応じて、みんなの思いや考えを分類することの大切さや有効性に気付いている。	目的に応じて、みんなの思いや考えを一つにまとめることの大切さや有効性に気付いている。	自ら設定した目的に応じて、効果的なコミュニケーションの方法を選択している。
授業づくりの例	児童・生徒の実態	学級や班での話合いの話題がそれることがある。	学級や班での話合いの中で、話す人と、話さない人が決まっている。	学級や班での話合いの中で、どんな意見が出たかをうまく報告できない。	学級や班での話合いの中で、思いや考えをまとめたり、要約したりすることができない。	学級や班での話合いの中で、テーマや目的を与えても、効果的に話合いが進まない。
	活動案	情報ツールを持たずに待ち合わせする時を想定し、様々なハプニングに対応できるよう連絡を取る方法をみんなで考える。	「旅行に行くならどこに行く」「好きな野菜」など、クラスのランキング表を作る。	文化祭のみんなの反省を「良かった点」「悪かった点」「来年に向けて」など項目も考えて分類する。	みんなの思いを反映させた、学級目標を決める。	「みんなが楽しむ時間」などの抽象的なテーマを与え、具体的な目標を決め、活動を考え、実践するまでを取り組ませる。
	予想される児童・生徒の気付き	みんなで同じように情報を理解するのは、思っていたより難しかった。	みんなの考えが分かると楽しくなるし、友達に興味がわく。	多くの意見も分類することで、みんなの考えの傾向が見える。	相手の意見の理由を聞いたなら納得したので、自分の意見を変えた。	目的を共通理解していないと、話合いは上手くないことが分かった。

## <引用文献>

高橋眞知子 2010 「企業・学校・サークル あらゆる組織の円滑な運営のために 組織を動かすコミュニケーション力」実教出版 P.18

## <参考文献>

コミュニケーション教育推進会議 2011 「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～『話し合う・創る・表現する』ワークショップへの取組～（審議経過報告）」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/23/08/\\_icsFiles/afieldfile/2011/08/30/1310607\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/08/_icsFiles/afieldfile/2011/08/30/1310607_2.pdf) （2015年4月取得）

北海道立教育研究所 2013 「平成23・24年度プロジェクト研究 児童生徒のコミュニケーション能力の育成に関する研究 研究報告書」  
[http://www.doken.hokkaido-c.ed.jp/?page\\_id=217](http://www.doken.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=217) （2015年4月取得）

文部科学省 2011 「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/1293933.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm) （2015年4月取得）

上野一彦 岡田智 編著 2006 『特別支援教育 実践 ソーシャルスキルマニュアル』 明治図書出版

國分康孝 監修 1999 『エンカウンターで学級が変わる Part 3 中学校編』 図書文化社  
嶋田洋徳 坂井秀敏 菅野純 山崎茂雄 2010 『中学・高校で使える人間関係スキルアップ・ワークシート』 学事出版

平田オリザ 2012 『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』 講談社  
向山洋一 2003 『学校の先生がそっと教える 子どもがじっと耳を傾ける魔法のおはなし』 PHP研究所

## 〈実践事例集 作成関係者〉

### 〈調査研究協力員〉

所 属	職 名	氏 名
二宮町立山西小学校	教 諭	赤羽 裕子
開成町立開成小学校	教 諭	荒野 泰宏
藤沢市立高倉中学校	総括教諭	繁里 勇
厚木市立林中学校	教 諭	金子 光宏
県立小田原高等学校	教 諭	厚美 香織
県立大和南高等学校	教 諭	峯 一路

### 〈神奈川県立総合教育センター〉

所 属	職 名	氏 名
教育課題研究課	指導担当主事	田中 恵美
教育課題研究課	指導主事	宇田川 信
教育課題研究課	教育指導員	河村 英二

平成 26・27 年度研究 〈小学校・中学校・高等学校〉  
教員の「思い」から始まる  
コミュニケーション能力育成のための  
実践事例集

発 行 平成 28 年 3 月  
発行所 神奈川県立総合教育センター  
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1  
電話 (0466)81-1659 (教育課題研究課 直通)  
ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

※本冊子については、ホームページで閲覧できます。



再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター

善行庁舎  
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1  
TEL (0466) 81-0188 【代表】  
FAX (0466) 84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

亀井野庁舎（教育相談センター）  
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4  
TEL (0466) 81-8521 【代表】  
FAX (0466) 83-4500

